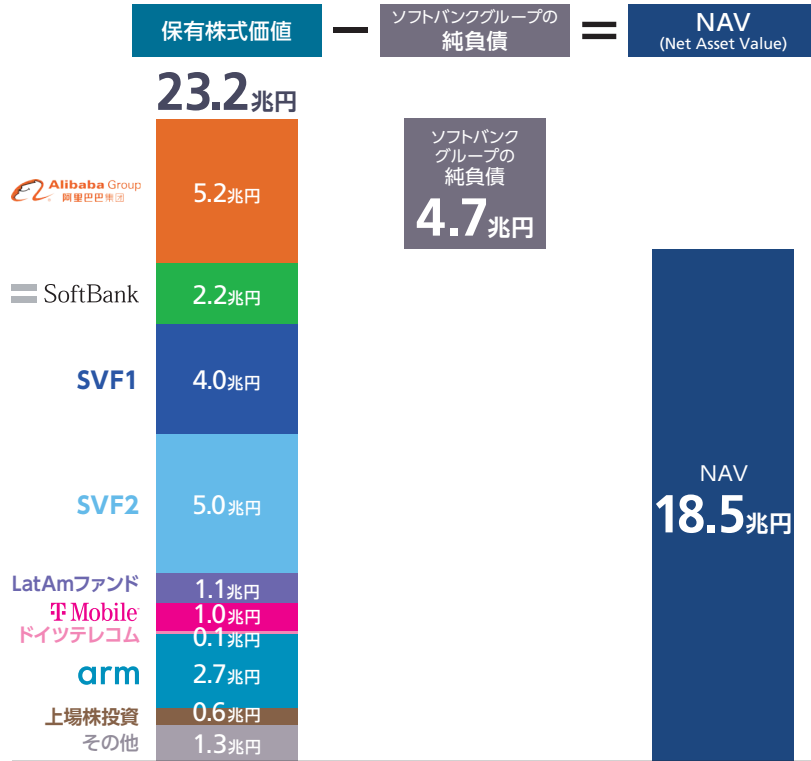


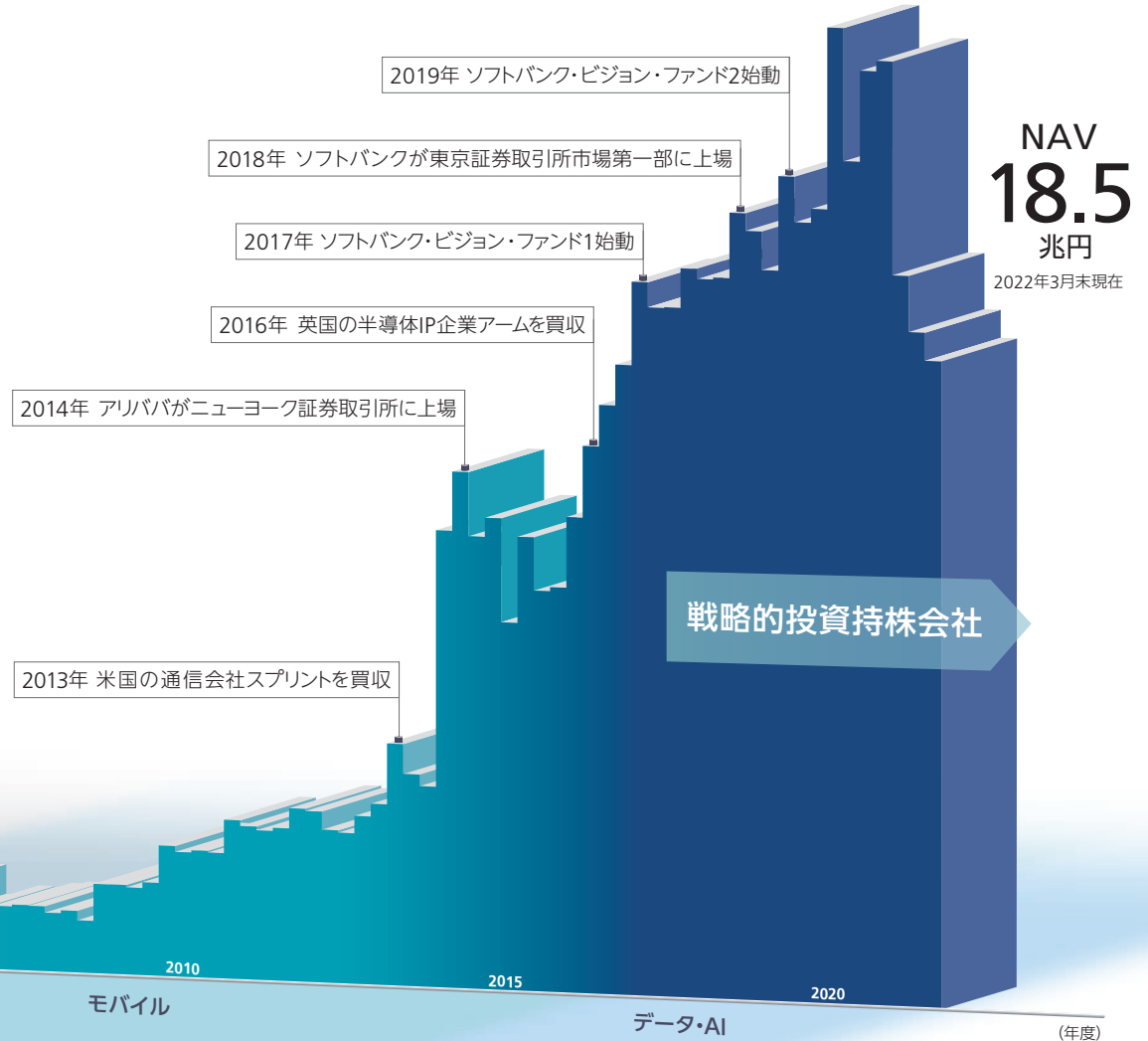
NAV (Net Asset Value) と LTV (Loan to Value)

「情報革命」に投資し、NAVの成長を目指す

2022年3月末現在



保有株式価値と純負債の算出前提は73ページをご覧ください。



(注) 各四半期末のNAVを示しています。NAVは、入手可能な情報に基づく当社の想定であり、情報の正確性および完全性について保証するものではなく、監査を受けた数値に基づくものではありません。NAVの推移は、将来の数値を保証するものではなく、また、ソフトバンクグループの普通株式を含むいかなる有価証券の価値や投資判断を示唆するものではありません。別段記載のない限り税金考慮前のデータに基づいて算出しています。

安定的な財務運営を測る重要指標：LTV

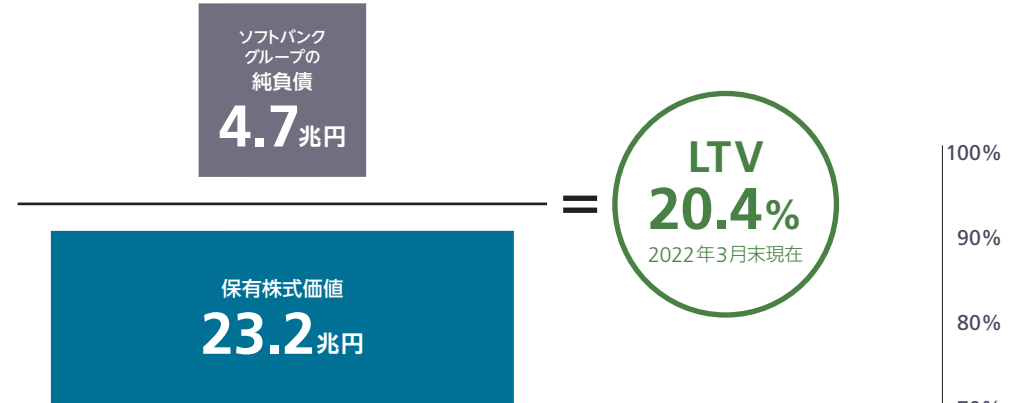
LTVは、ソフトバンクグループの純負債÷保有株式価値で計算される財務指標です。ソフトバンクグループは、通常時にはLTVを25%未満で運営し、異常時でも35%を上限とする方針を定めています。LTV25%未満は非常に安全性の高い基準であり、負債を返済する保有株式価値が十二分にある状態を示しています。

 保有株式価値と純負債の算出前提は73ページをご覧ください。

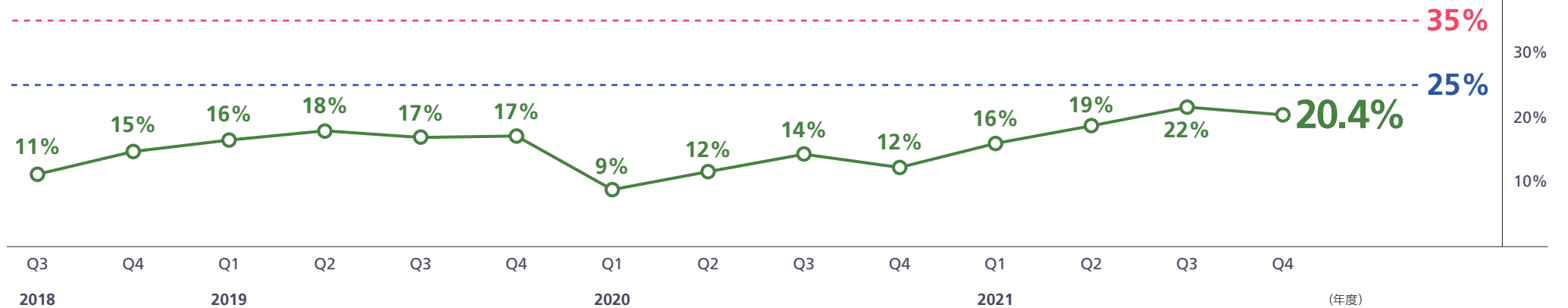
LTVの計算方法



(注) 保有株式価値は、アセットバック・ファイナンスにおける満期決済金額または負債計上額を除きます。ソフトバンクグループの純負債は、アセットバック・ファイナンスにおける負債計上額を除きます。また、ソフトバンクグループの純負債の算出からは、当社のうち、ソフトバンク(Zホールディングスをはじめとする子会社を含みます。)、SVF1、SVF2、LatAmファンド、アーム、およびPayPayなど独立採算で運営される事業体ならびに資産運用子会社SB Northstarに帰属する有利子負債および現預金等を除きます。



LTVの推移



ソフトバンクグループのポートフォリオ

NAVに含まれる保有資産

2022年3月末現在

報告セグメント	保有株式価値				保有株式に係る 連結簿価合計*2
	子会社	持分法適用関連会社	FVTPL*1で会計処理されている投資		
持株会社 投資事業		 Alibaba Group 阿里巴巴集团 5.2兆円	T Mobile 1.0兆円 ドイツテレコム 0.1兆円 上場株投資 (SB Northstar 含む) 0.9兆円 ソフトバンクグループのその他の投資先 0.8兆円	8.0兆円	5.6兆円
ソフトバンク・ビジョン・ ファンド事業	SVF1 4.0兆円 SVF2 5.0兆円			9.0兆円	9.0兆円
ソフトバンク事業	 SoftBank 2.2兆円			2.2兆円	1.3兆円
アーム事業	arm 2.7兆円*3			2.7兆円	1.9兆円*3
ラテンアメリカ・ファンド 事業	LatAmファンド 1.1兆円			1.1兆円	1.1兆円
その他	その他の子会社 0.2兆円			0.2兆円	0.3兆円
				合計 23.2兆円	合計 19.2兆円

⑤ 保有株式価値の算出前提は73ページをご覧ください。

*1 Fair Value Through Profit or Loss。資産・負債を期末時点の公正価値で評価し当該増減をP/Lに計上する方法です。

*2 保有株式価値合計および保有株式に係る連結簿価合計は、いずれも表中に記載された資産のみを対象としています。保有株式に係る連結簿価合計は、保有資産の取得価額や税務上の簿価とは一致しません。

*3 アームはソフトバンクグループが75.01%、SVF1が24.99%を保有しています。アームの株式価値2.7兆円はソフトバンクグループ保有分の価値です。SVF1保有分の価値はSVF1に含まれています。アームの連結簿価1.9兆円は、ソフトバンクグループ保有分です。

ソフトバンク・ビジョン・ファンド

ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド

保有株式価値 (2022年3月末現在)

SVF1 **4.0**兆円

SVF2 **5.0**兆円

LatAmファンド **1.1**兆円

ソフトバンク・ビジョン・ファンド1は2017年に、ソフトバンク・ビジョン・ファンド2およびソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドは2019年にそれぞれ投資活動を開始しました。これらのファンドは、ユニコーンまたはユニコーンとなる可能性があると判断される企業を中心に構成される、ユニークな投資ポートフォリオを有しています。多額の出資コミットメントや、存続期間が設立から10年超の長期にわたる私募ファンドという特色を生かし、多種多様な市場およびテクノロジー分野においてプレゼンスを確立した企業に対して中長期的に投資を行うとともに、地理的・戦略的な多様性を一定程度保つことにより、短期的な市場の変動による影響を抑え、中長期的なリターンの最大化を目指しています。

SVF1は2019年9月に投資期間を終了したことから、近時では、投資収益の実現による投資資金の回収に主眼を置いています。一方、SVF2は積極的に新規投資を行っています。なお、LatAmファンドは、2022年度よりSVF2と同様にSBGAが運営することとなり、「ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業」へ統合されます。

ラジーブ・ミスラ Rajeev Misra
ソフトバンクグループ(株)
副社長執行役員
CEO, SoftBank Investment Advisers



📄 詳細は22～29ページをご覧ください。

arm

保有株式価値 (2022年3月末現在)

2.7兆円

1990年に設立されたアームは主に、半導体のIP（プロセッサの設計情報などの知的財産）のライセンス事業を行っています。2016年の当社による買収後、研究開発への投資を増やし、製品の種類および対象市場を拡大してきました。2021年3月には、より高い性能と強固なセキュリティやプライバシー、機密性の提供が可能となる「Armv9」アーキテクチャーを発表し、2021年度に「Armv9」をベースにした「Cortex-X2」などの新製品を発表しました。

アームは、モバイルコンピューティングをはじめ、AI、IoT、クラウド、自動運転、メタバースなどの市場におけるシェアの拡大・維持、アームのテクノロジーを使用するチップのロイヤルティ単価の増加、ならびに新商流の導入によるアームのテクノロジーの利用の促進に引き続き取り組んでいます。

レネ・ハース Rene Haas
CEO, Arm Limited



📄 詳細は30～31ページをご覧ください。

SoftBank

保有株式価値 (2022年3月末現在)

2.2兆円

ソフトバンクの前身は主に2006年に買収したボーダフォン日本法人で、現在、当社における日本の中心的な事業会社です。「Beyond Carrier」戦略の下、コア事業である通信事業のさらなる成長を図るとともに、2019年6月に子会社化したZホールディングス、2021年3月に子会社化したLINEの成長と新規事業の創出による非通信事業の拡大を目指しています。

当社は2020年にソフトバンク株式の一部を売却しましたが、同社の戦略的な重要性は変わらず、売却後の所有株式（2022年3月末の株式所有割合：40.7%、自己株式控除後）を中長期的に保有する方針です。

宮川 潤一 Miyakawa Junichi
ソフトバンク(株)
代表取締役 社長執行役員 兼 CEO



📄 詳細はソフトバンクのIRサイトをご覧ください。

ソフトバンク・ビジョン・ファンドの投資戦略

AI革命への確信は 不変

2021年度は前半と後半で様相の異なる市場環境となったことが投資家にとって印象的な1年でした。通年では、NASDAQ株式市場は16,212.23ポイントの最高値を記録し、市場全体の平均PERは20倍を超えました。未上場テクノロジー企業に対する上場への需要も高く、過去最高の384社が上場し、前年の2倍以上となる920億米ドルの資金調達がなされました*1。昨年度のこのレポートでは、世界的なパンデミックがもたらした急速なデジタル化の進展についてお話ししました。2021年度に入り、新型コロナウイルス感染症による悪影響は解消し始めましたが、われわれの投資先が提供するデジタル製品やサービスに対しては、引き続き高水準の需要が続いています。一部の購買習慣は元に戻るかもしれませんが、デジタル消費の利便性とスピードは、購買行動の水準を大きく塗り替えてしまいました。このため、年度前半はAI企業に対する投資家の関心が大いに高まり、われわれのポートフォリオに大きな恩恵をもたらしました。

ラジーブ・ミスラ Rajeev Misra

ソフトバンクグループ(株)
副社長執行役員
CEO, SoftBank Investment Advisers

対照的に、年度後半は、厳しさを増す中国の規制環境やサプライチェーン問題、ロシアのウクライナ侵攻が、マクロ経済におけるボラティリティを高めました。インフレの急速な進行による経済影響、複雑化する地政学的リスク、多くの市場で資源価格が高騰していることに象徴される世界的なエネルギー・ショック。この極めて重要な3つのテーマによって、不確実性が定着しつつあります。上場・未上場銘柄に投資するほとんどの投資家にとって厳しい状況です。ソフトバンクグループも例外ではなく、市場の不確実性が継続する懸念から、投資先の公正価値が減少しました。しかし、設立来累計では、ソフトバンク・ビジョン・ファンドは2022年3月末現在で288億米ドル*2の利益を上げています。ソフトバンク・ビジョン・ファンドが、長期投資ビークルとして、市場の変動を越えて、多様な地域、セクター、テクノロジーにまたがる比類ないエコシステムを作り上げるべく意図的に設計されていることが、われわれの強みになっています。

テクノロジーによるディスラプション(創造的破壊)は、今後何十年にもわたって実感されていくであろう、世代を超えた潮流です。この事への確信は変わりません。われわれの投資ポートフォリオがそれを裏付けています。設立以来、ソフトバンク・ビジョン・ファンド1は90社以上に875億米ドル*2を投資してきました。2021年度には

12社が世界各地の証券取引所に上場し、これまでに上場した投資先数は26社に達しました。これは、ソフトバンク・ビジョン・ファンド1の構成が成熟してきたことの表れです。2022年3月末現在、ソフトバンク・ビジョン・ファンド1の資産のうち58%がエグジット済みまたは上場済みです。だからこそ、われわれのキャピタル・マーケットチームはこれらのポジションを資金化し続けることができ、ファンドの設立から5年で387億米ドルをリミテッド・パートナーに分配するという、目覚ましい成果を挙げてきました。

ソフトバンク・ビジョン・ファンド2も引き続き力強く前進しています。2021年度は208件に新規投資し、投資先は現在250社を超えました。コミットメント総額は560億米ドルに達し、現在、世界第2の規模のテクノロジー・ファンドです。より小規模、アーリーステージ、地域・セクターの分散に重点を置いた投資スタイルをとっており、株主の皆様にも納得いただけたと思います。

さらに、直近では、ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドをSoftBank Investment Advisersのプラットフォームに統合しました。ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドは2019年に設立され、ラテンアメリカ地域の投資先100社以上に約70億米ドルを投資しています。設立来のブレンドIRR(内部収益率)*3は32%と、力強い成果を挙げています。

*1 PwC [Global IPO Watch 2021]

*2 当社連結ベース

*3 ブレンドIRRとは、管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)およびその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分および優先出資持分を含めた正味の内部収益率を指します。2022年3月末現在のリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額およびLatAmファンドの純資産価値を基に算出されています。なお、これは、Preferred Equity Coupon(分配済み・未払い含む)を反映したものです。当該数値は、ソフトバンクグループの普通出資持分に係る内部収益率を表しています。該当がある場合は、マネージャーとしての成功報酬(支払済み・未払いを含みます)の影響が加味されます。

グローバルプラットフォームが進化

われわれの投資能力は、このように着々と、単一の投資ビークルからグローバルなマルチファンド・プラットフォームへと進化してきました。SoftBank Investment Advisersは、5年前にソフトバンク・ビジョン・ファンド1を運用するために設立されました。その後、ソフトバンク・ビジョン・ファンド2の立ち上げと拡大、そしてソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドの統合によって、われわれの投資能力はグローバル規模で飛躍的に拡充しました。現在では、世界14の主要地域で活動する経験豊富な投資および各管理部門の専門家チームによって、合計1,750億米ドルを超える資産を運用しています。

キーとなる市場において現地で強い存在感を示すという、われわれの努力は実を結びつつあります。2021年度には、イスラエル、日本、サウジアラビア、トルコおよびアラブ首長国連邦で初めて投資を手掛けました。人材に投資し続けると同時に社内の人材育成にも力を入れ、2021年度はグローバルな見識・専門知識を豊富に備えた6名を新たにマネージング・パートナーに任命しました。また、投資チームの強化のため新たに59名を採用し、そのうち46%は女性です。継続的な成功に必要な、適切な人材とリソースが備わっていると思います。

ソフトバンクグループのネットワークが持つ力は、世界中の創業者の羨望的のです。ソフトバンクグループのポートフォリオによるエコシステ

ムは、現在450以上の投資先をはじめ、アリババ、アーム、ソフトバンクなどから成っており、共に成長することを目指して、連携や共有が図られています。

ソフトバンク・ビジョン・ファンドには前例というものがなく、成功を疑問視する声が多くありました。しかし、ビジョンと規律があればベンチャーキャピタルはうまくスケールアップできることをわれわれは証明したのです。

このトレンドは、未上場テクノロジー企業のイノベーション・スーパーサイクルを促し、資産クラスとしてのグロース・エクイティのあり方を不

可逆的に変えました。機関投資家によるこの分野への投資は、過去10年間のほかのあらゆる未上場の資産クラスへの投資を凌駕しています。その結果、世界中のユニコーンの数は急速に増加し、現在では1,000社を超えました*4。そのうち195社がわれわれの投資先なのは、胸を張れることでしょう。

もちろん、現在の環境下では慎重な姿勢と規律が必要です。マサ(当社代表取締役 孫 正義)が言うように、状況に応じて守りを固めることが大切です。われわれは投下資本を厳選していかなければなりません。投資チームは引き続き

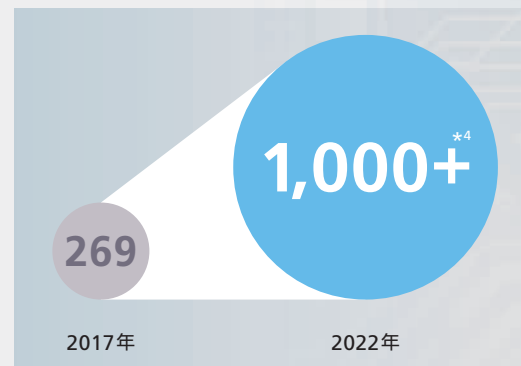
積極的に活動していますが、新規投資の承認のための要求水準は厳しくなっており、必然的に投資のペースは鈍化しています。また、資本市場の見通しが悪化していることから、2022年度には新規上場が減少するでしょう。不確実な状況が続く中で、企業がユニット・エコノミクスの強化を優先させるためです。新型コロナウイルス感染症の大流行時と同じように、われわれは投資先と密接に連携し、市場環境が改善した時には、これらの企業がより強固な存在となっているよう支援しています。

*4 Statista「Global Unicorn Herd Now Counts 1,000+ Companies」2022年4月

選好されるグロース株投資

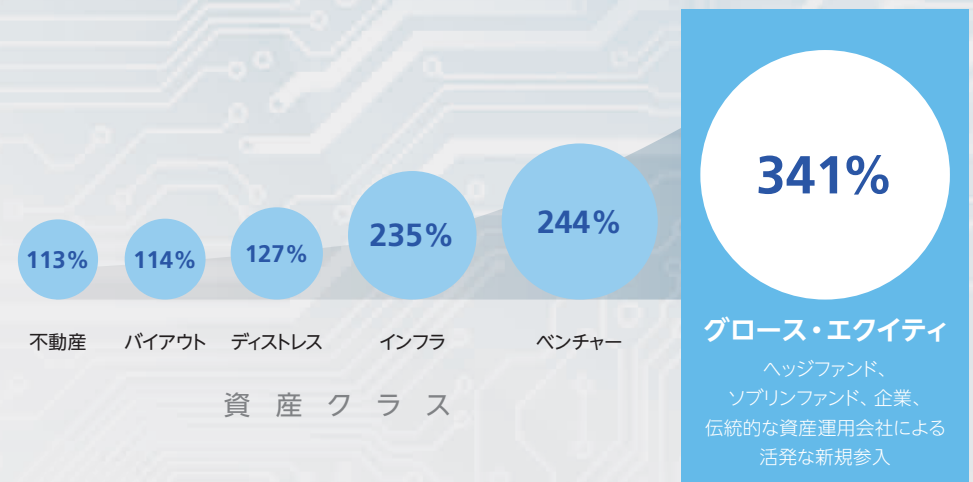
世界的にユニコーンの数が増加

世界のユニコーン数



グロース・エクイティはほかの資産クラスを上回って成長

ドライパウダー(投資待機資金)の増加率(2010~2020年)*5



*5 Bain & Company「Global Private Equity Report」2021年

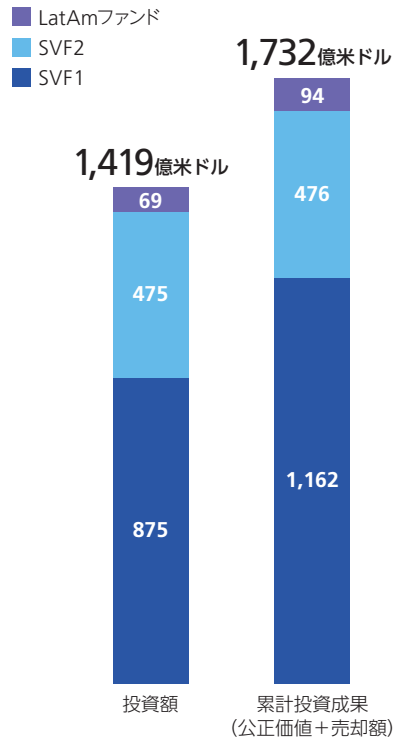
ソフトバンク・ビジョン・ファンド：In Focus

ソフトバンク・ビジョン・ファンドの詳細は、同ファンドのウェブサイトをご覧ください。

投資成果 (当社連結ベース)

2022年3月末現在

(億米ドル)



投資成果

2022年3月末現在、ソフトバンク・ビジョン・ファンドおよびソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドの累計投資件数は450社以上(エグジット済みの銘柄を含む)に上り、これらの投資先は、多種多様な地域、セクター、テクノロジーに

わたります。両ファンドの投資額1,419億米ドル*¹に対し累計投資利益は313億米ドル*¹、投下資本に対するマルチプルは1.22倍になりました。これにより、両ファンドの保有資産の公正価値は合計1,732億米ドル*^{1,2}に上っています。

ソフトバンク・ビジョン・ファンド1は、2017年

の活動開始から2019年の投資期間終了まで、92社に810億米ドルを投資しました*³。2022年3月末までに、このうち26社が世界の主要取引所に上場しました。2021年度は、Grabが世界最大規模のSPAC合併によりNASDAQ株式市場に上場し、PB Fintech (Policybazaar)およびOne 97 Communications (Paytm) がボン

上場実績

SVF1 SVF2



*1 当社連結ベース
 *2 エグジットした投資の売却額を含みます。
 *3 SVF1は2019年9月12日に累計投資額が出資コミットメント総額の85%に達し、投資期間を終了しました。投資先の件数は、ファンド設立から投資期間終了までにSVF1が行った投資および既存投資先との合併会社を含みます。コミットメント残額は既存投資先への追加投資などに充当されています。
 *4 10x Genomicsは2020年8月に、Slack Technologiesは2020年9月に、PingAn Good Doctorは2020年10月にエグジット済みです。Full Truck AllianceおよびWeWorkは、SVF1およびSVF2のいずれからも投資しています。
 (注) 本項に掲載された投資に関する言及は、特定の投資対象または証券の推奨と解釈してはなりません。将来行われる投資が、本項に説明される投資と質またはパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。SVF1および2の投資先のより網羅されたリストは、98ページと101~103ページをご覧ください。投資の売却またはIPOに関する情報は、SVF1および2の過去および現在の上場投資先を例示する目的で掲載しており、SVF1および2の全投資先の一覧ではありません。投資の結果は投資家ごとに異なる可能性があります。

バイ証券取引所において同取引所史上最大規模での上場を果たしました。規律とバランスのとれた資金化戦略の下でのこれらの上場は、ファンドの投資家に対し多大な価値の具現化をもたらすものとなりました。2022年3月末現在、ソフトバンク・ビジョン・ファンド1はリミテッド・パートナーに対し累計387億米ドルの分配を行っており（このうち、2021年度の分配額は164億米ドル）、その累計保有資産の58%がエグジット済みまたは上場済みであることが、ファンドの成熟度を表しています。

ソフトバンク・ビジョン・ファンド2は、これまでに総額560億米ドルの出資コミットメントを得て、250社以上の企業に469億米ドルを投じ、目覚ましい進展を遂げてきました。2020年度に引き続き、2021年度初頭、パブリック市場では成長企業に対しプライベート市場よりも高いマルチプルが適用され、IPOが急増しました。この傾向はファンドの既存投資先企業に恩恵をもたらした一方、創業者が次のラウンドの資金調達先としてパブリック市場に目を向けたため、レイトステージ企業への投資機会は限定的なものになりました。そこでソフトバンク・ビジョン・ファンド2は、投資額に見合った価値を求めて、よりアーリーステージの企業とパートナーシップを結び、より小規模な投資を行うように戦略を変更しました。その結果、ファンドの1件あたりの平均投資額は1~2億米ドルに縮小し、出資比率も平均10~15%に低下しました。投資活動が活発となった2021年度を中心に、2022

年3月末までにソフトバンク・ビジョン・ファンド2の投資先のうち14社が上場し、ファンドは86億米ドルをリミテッド・パートナーに分配しました。これは設立から3年足らずのファンドとしては大きな成果といえます。2022年度に入って投資のペースを落としているものの、ドライパウダー（投資待機資金）は潤沢です。投資チームは今後も優良な案件の発掘を怠らず、厳選された適切な投資機会に対して資金を投入できる態勢を整えています。

ポートフォリオ管理の強化 —オペレーティング・グループ

SoftBank Investment Advisersは、投資先に対して単なる資本を超えた付加価値を提供することを強みとしています。そのオペレーティング・グループは、起業家が業界をリードする事業を構築するための戦術的な知識、ネットワークおよび経験を有する30名以上の業界の専門家で構成されています。新型コロナウイルス感染症の拡大局面においては、投資先の経営陣と手を携え、ロックダウンという特殊な課題を乗り越えるサポートを行いました。新たな資本調達が困難な現在の環境下においても、バランスシートの安定と事業効率の向上を図るため、事業運営に不可欠なアドバイスを行っています。オペレーティング・グループは、ポートフォリオの中でも比較的資産価値が大きく、ファンドに大きな利益をもたらす可能性がある投資先の支援に重点を

置いています。また、投資後のポートフォリオ管理や付加価値創造だけでなく、投資パイプラインの段階からソーシングおよびデュー・デリジェンスをサポートすることで、投資プロセス全体を通じて重要な役割を果たしています。

ソフトバンク・ラテンアメリカ・ ファンドの統合

2022年度からソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドをSoftBank Investment Advisersの運用下に組み入れることとなり、投資プラットフォームはより強固なものへと発展しました。ラテンアメリカ地域は人口が多く、経済が活発で、数多くの優秀な人材を抱えていることは今日では周知の事実ですが、これまで長く世界の投資家から過小評価されてきました。当ファンドは早くからこの地域に着目し、過去3年にわたって当地の有力企業に投資してきました。当初はベンチャー企業育成と成長株投資機会に焦点をあてて活動を開始しました。ラテンアメリカ地域ではそれまでもアーリーステージ投資を行う国内ベンチャーキャピタルが存在していましたが、グロースステージで大きなギャップが生じており、グローバルな成功への道のりを後押ししてくれる投資家が必要とされていることが分かってきました。

今日では、ラテンアメリカ地域でのテクノロジー・エコシステムの成熟度と創業者の強さを反映し、将来ユニコーンになる可能性がある

見込まれる有力なテクノロジー企業を対象あらゆるステージで投資を行っています。当ファンドがパイオニアとなり、ほかのベンチャーキャピタルが追隨してきました。1号ファンドを設立した2019年は、ラテンアメリカ地域全体の年間ベンチャーキャピタル投資額は44億米ドルと控えめでしたが、2021年には148億米ドルにまで増加しました。2022年3月末現在、当ファンドのポートフォリオは101社の投資先で構成され、このうち7社が上場済みであり、ほか32社がユニコーンとして評価されています。今後ラテンアメリカ地域の有力なテクノロジー企業がグローバルに事業を展開していくのに伴い、さらに価値が持続的に生まれていくことを期待しています。

投資プロセスへのESG要素の 組み込み

ソフトバンク・ビジョン・ファンドおよびソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドはインパクト投資ファンドではありませんが、われわれの投資およびポートフォリオ管理とESG（環境、社会、ガバナンス）基準の関係性はますます高まっています。

われわれは現在、多くの潜在的な投資機会について投資前にESGの観点からリスクを精査し、第三者機関が提供するツールを用いた数百万の公開データソースの分析や、対象企業の主要な指標および企業に特有のESGリスクプロファ

イルの確認などを行っています。また、投資後は、必要に応じて第三者機関を含めたモニタリングを選択的に実施しています。

環境への影響という観点では、ソフトバンク・ビジョン・ファンドは、気候変動の緩和に貢献するさまざまな企業に投資しています。グリーンエネルギーの発電・蓄電に特化したEnergy VaultやEnpal、都市型モビリティの脱炭素化に取り組むTIER MobilityやZūmなどはこの一例です。これらの投資先や、AIの活用を通じて大規模な環境・社会問題の解決に取り組むその他の企業への投資については、本レポートの「サステナビリティ」セクションで詳細に紹介しています。

また、ガバナンスの観点では多様性を重視し、投資先における経営幹部候補や取締役候補の選定において、ジェンダーや人種のバランスが保たれるよう支援しています。Him For Her、Athena、Beyond Board、Stanford Women on BoardsおよびBoardlistなどの独立機関と協力し、ポートフォリオ全体で要職に占める女性の割合が年々増加しています。

より公平な未来をつくるために

SoftBank Investment Advisersは、社会をより良いものにするために、テクノロジー企業やベンチャーキャピタルの世界のエコシステムをより公平なものに育むことに尽力しています。米国を拠点とするSBオポチュニティ・ファンドとグローバルに展開している「Emerge」プログラ

ムを通じて、成長を目指す優秀なマイノリティ起業家を支援するための具体的な行動を起こしています。これらの取り組みは、才能は平等に分配されるが、機会はそうではないという前提に基づいています。だからこそ、さまざまなバックグラウンドを持つ起業家への投資は、正しい行為であると同時に、ソフトバンクグループのコア事業に合致した魅力的な投資機会でもあります。各プログラムは、過小評価されている創業者と、事業を拡大するために必要なアクセス、資金、助言、ネットワークとを結び付ける役割を担っており、ソフトバンクグループの投資事業におけるESG戦略の柱となっています。

SBオポチュニティ・ファンドは、米国に拠点を置くアフリカ系、ラテン系、ネイティブアメリカンの起業家が共同設立または主導するテクノロジー関連企業への投資を目的とした当社グループの投資ビークルです。同ファンドは、2020年6月に1億米ドルの出資コミットメントを得て設立されて以降、今日に至るまでこれらのマイノリティ起業家を積極的に支援しています。

「Emerge」は、過小評価されている創業者を支援する次世代型のアクセラレーター・プログラムです。2022年度に3回目を迎えるこのプログラムは、2020年に米国で初めて導入後、2021年には欧州に軸足を移しました。2021年は、同じ思想を持つ欧州のベンチャーキャピタル連合からの協賛を受けて開催されました。2022年3月末までに「Emerge」は22社に投資しており、2022年には中東やインドなど新たな

地域にも拡大する予定です。

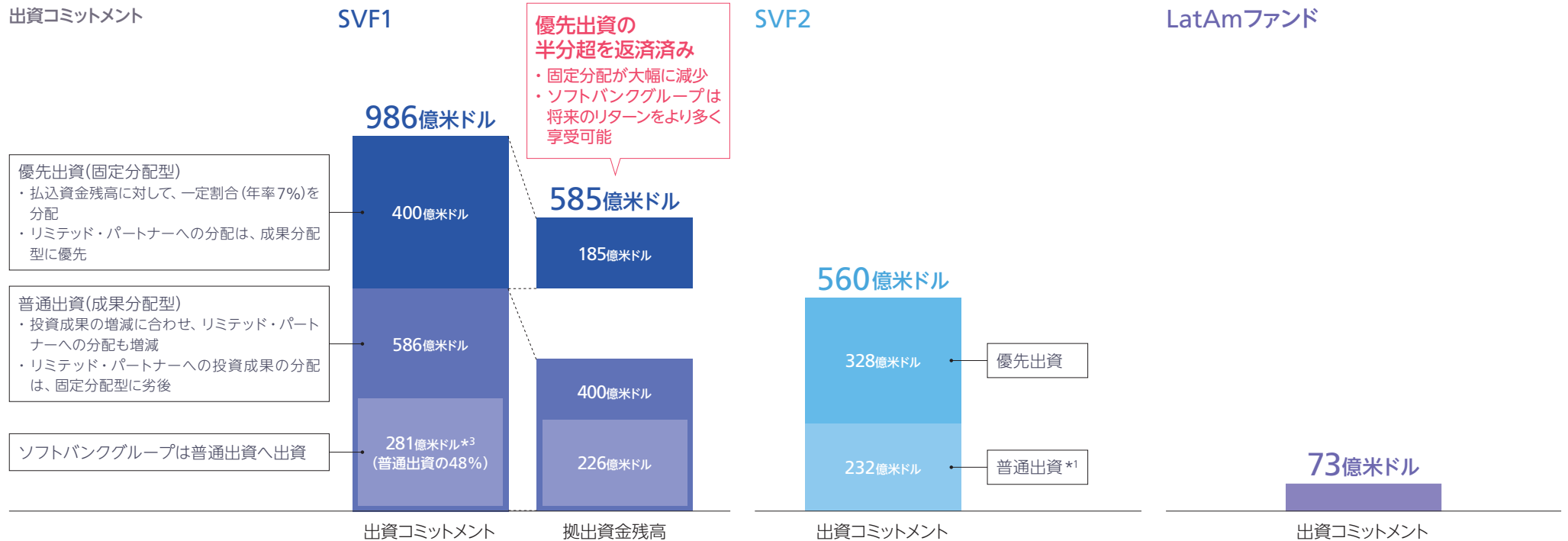
これらの取り組みを通じて、シードやアーリーステージの企業に投資することで、将来的にソフトバンク・ビジョン・ファンドの投資パイプラインの充実につながることも期待されます。

投資ファンドの概要

2022年3月末現在（別段の記載がある場合を除く）

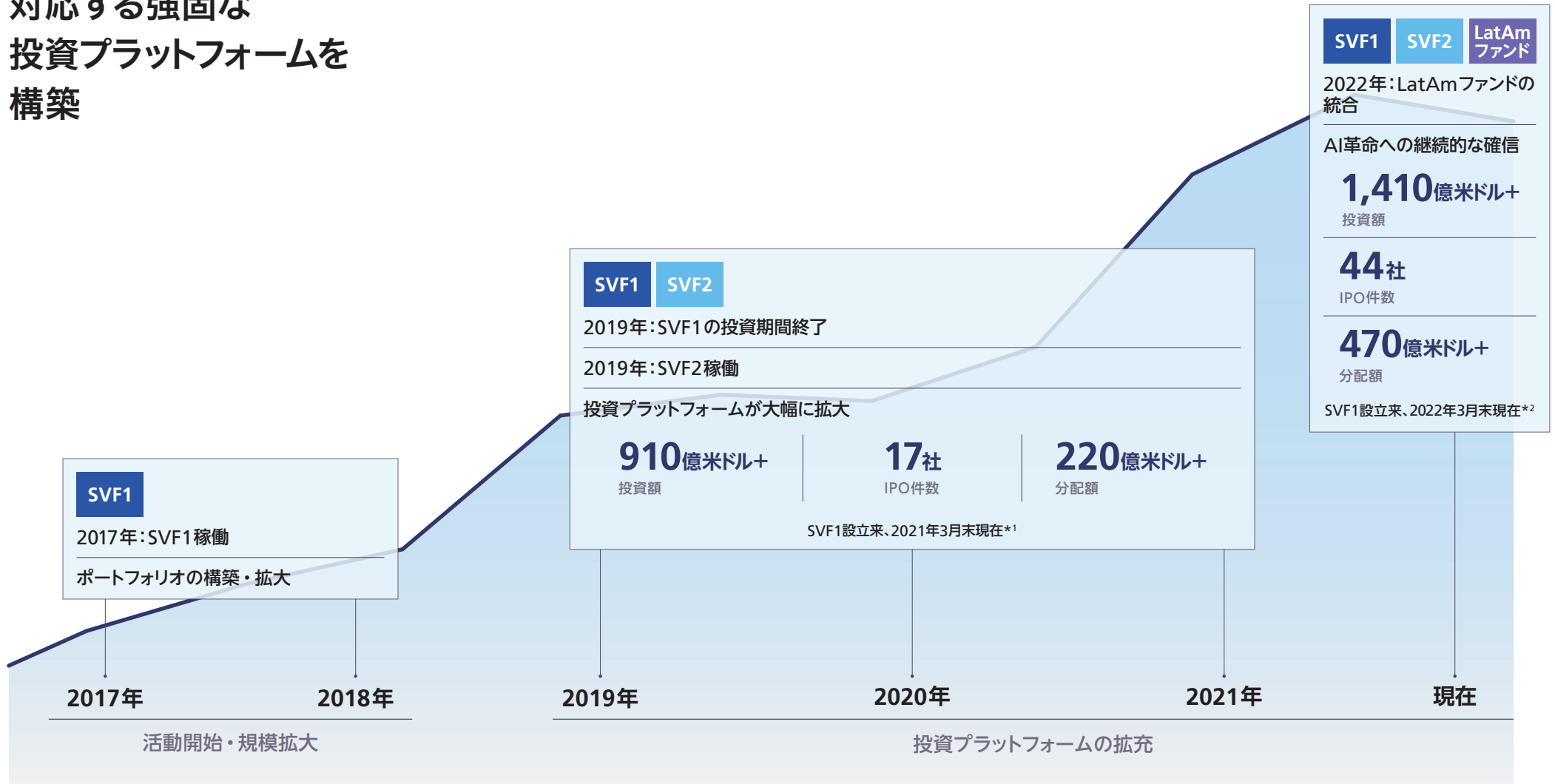
	SVF1	SVF2	LatAmファンド
出資コミットメント総額	986億米ドル	560億米ドル	73億米ドル
リミテッド・パートナー	当社および外部投資家	当社*1	当社*1
運営会社	SB Investment Advisers (UK) Limited (当社海外100%子会社)	SB Global Advisers Limited (当社海外100%子会社)	SB Global Advisers Limited*2 (当社海外100%子会社)
活動開始	2017年	2019年	2019年
存続期間	原則2029年まで	原則2032年まで	原則2032年まで
現在のフェーズ	回収期間(&フォローオン)	投資期間	投資期間

出資コミットメント



*1 共同出資プログラムを含みます。同プログラムの詳細は93ページをご覧ください。
 *2 2022年4月からLatAmファンドはSB Global Advisers Limitedが運営しています。
 *3 SVF1に関連するインセンティブ・スキームに係る出資コミットメントを除きます。

景気循環サイクルに 対応する強固な 投資プラットフォームを 構築



*1 2021年3月末現在の投資額、IPO件数および分配額は、SVF1とSVF2の設立からの数値の合計です。なお、WeWorkおよびFull Truck Allianceは、SVF1およびSVF2のいずれからも投資しています。
 *2 2022年3月末現在の投資額、IPO件数および分配額は、SVF1、SVF2およびLatAmファンドの設立からの数値の合計です。なお、WeWorkおよびFull Truck Allianceは、SVF1およびSVF2のいずれからも投資しています。
 (注) 上図は、例示のみを目的として掲載しています。過去の業績は、必ずしも将来の業績を示唆するものではありません。

14

世界各地域の拠点

9

セクター

ロジスティクス

フロンティアテック

コンシューマー

トランスポーテーション

エドテック

エンタープライズ

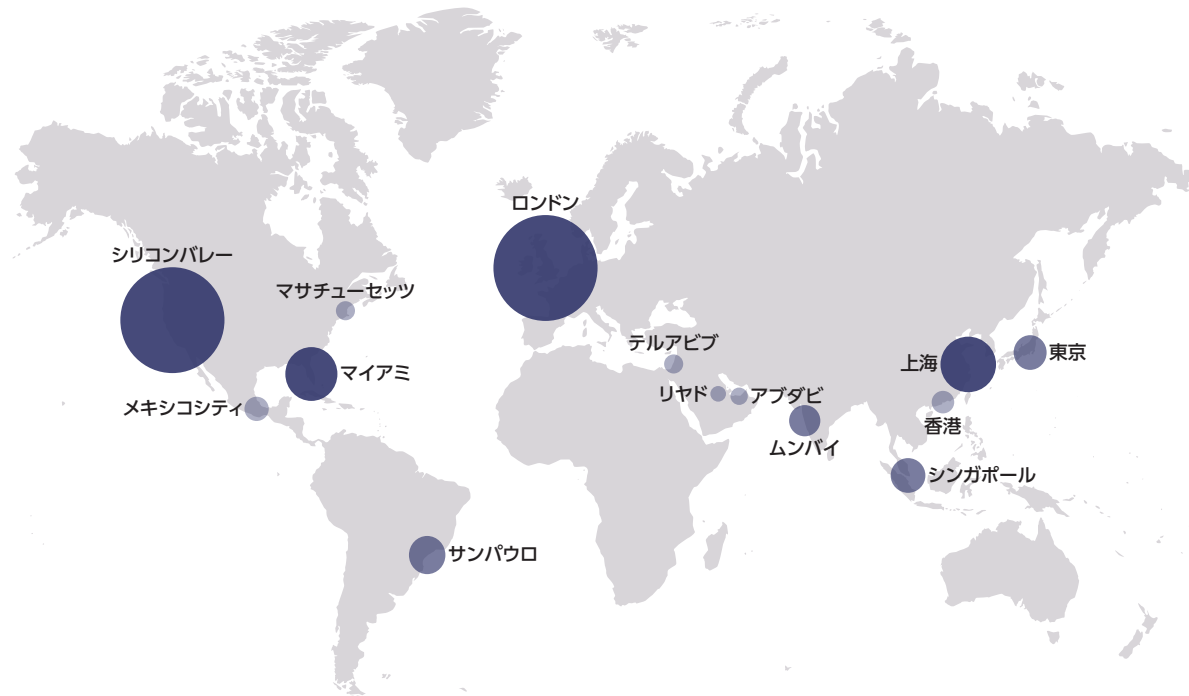
フィンテック

ヘルステック

プロップテック

世界14の主要拠点で地域に根差した活動を展開

2022年3月末現在



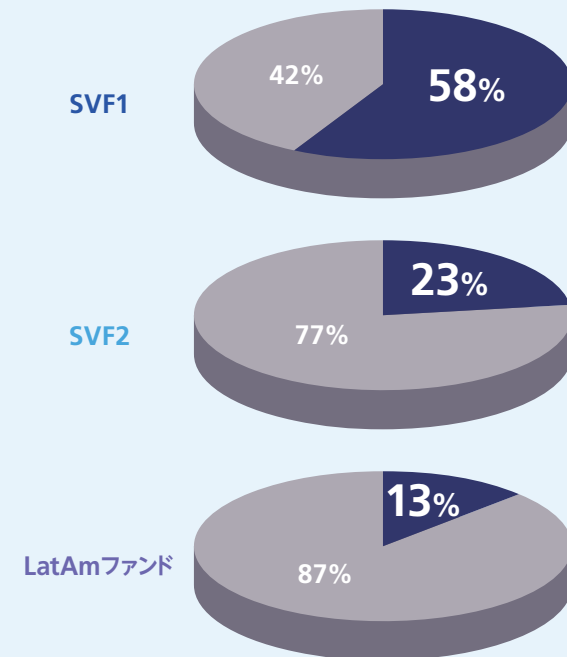
(注) 各拠点の円の大きさは人員数を表しています。本レポートに記載したSoftBank Investment Advisers、SVF1、SVF2およびLatAmファンドの運営またはプロセスは将来にわたって継続する保証はなく、変更される場合があります。

ポートフォリオの成熟

ポートフォリオの透明性と資金化の柔軟性が向上

公正価値合計(実現&未実現)

■ エグジット済み&上場*3 ■ 未上場*4



*3 エグジット済みの投資に係るエグジット金額および受取配当金と2022年3月末現在で上場している投資の公正価値(未実現)の合計額です。

*4 2022年3月末現在の未上場の投資の公正価値(未実現)です。

アームの事業戦略

アームの物語は 次の章へ

半導体テクノロジーで世界をリード

アームは、半導体技術開発におけるグローバル・リーダーとして、あらゆるものがつながっている今日の世界を形成するパーベイシブ・コンピューティング*1の中心的役割を担っています。アームのプロセッサ・テクノロジーは、この種の半導体デザインとしては世界で最も広くライセンス供与・採用されており、スマートフォンではほぼすべて、タブレットとデジタルテレビのほとんどでも使用されているほか、組込プロセッサ用チップでも高い割合で搭載されています。IoTや自動運転車、産業オートメーションなど、新たに顕在化しつつあるエレクトロニクスの新市場でも、アームの高機能プロセッサ・デザインが数多く採用されています。

*1 モバイル、自動運転、IoTなど、すべてのテクノロジーをネットワーク環境下において融合するコンピューター技術であり、必要な情報に「いつでもどこでも」簡単かつ安全にアクセスできる状態のことです。

レネ・ハース Rene Haas
CEO, Arm Limited

アームのビジネスモデル

アームは、アームのテクノロジーを搭載したチップを製造する半導体企業に対し、プロセッサ・デザインのライセンスを供与します。ライセンス供与される企業は、アームのテクノロジーを利用するにあたって、初期費用としてライセンス料を支払い、また、アームのテクノロジーを使用したチップごとに、その販売価格などに基づきロイヤルティを支払います。

アームのデザインは、幅広いアプリケーションで利用可能です。異なるチップ・ファミリーとして複数の市場向けに再利用され、新たなロイヤルティ収入を生み出すこともあります。一つのデザインが、さまざまなチップで使用され、25年超にわたって出荷され続けることもあります。

長期を見据えた投資

世界は目まぐるしく変化を続け、新しいアプリケーションやデバイスのカテゴリー、市場が次々と誕生しています。その多くが、性能を発揮する上で高度な半導体が必要とします。一方、新しいデバイスで使用されるテクノロジーの開発には長い年月を要します。アームは、5～10年後に消費者や企業が使い始める製品を見据えた投資を、現在行っています。2016年のソフトバンクグループによる買収以降、アームは研究開発投資を大幅に増やし、新たな事業機会にふさわしいテクノロジーの開発を進めてきました。

新プロセッサ・テクノロジーの開発投資は次のような目的の下で行われています。

- スマートフォンやコンシューマー・エレクトロニクス、組込コンピューティングなど、すでにアームが強みとしている領域での市場地位を維持する
- より多くのテクノロジー（グラフィックプロセッサや機械学習プロセッサなど）と、より付加価値の高いテクノロジー（パフォーマンスとセキュリティの強化など）が提供できる領域での価値向上を図ることで、より高いロイヤルティ単価を実現する
- 自動運転車やIoT、拡張現実（AR）ヘッドセットなどの新興技術分野で、マーケットリーダーの地位を確立する
- OEMやクラウドサービス企業へのテクノロジーの直接ライセンス供与など、競争環境に変化をもたらすような新しいビジネスモデルを導入する

数年前の投資が今日の収益の源泉

顧客企業が、アームのテクノロジーを搭載して複雑なSoC（システム・オン・チップ）*2を開発するまでには、時間を要します。今日供与したライセンスからロイヤルティ収入を得るまでには少なくとも2～3年間待たなければなりません。チップが商業的な成功を収めれば、その後数年から数十年にわたる追加的なロイヤルティ収入源になります。

*2 マイクロプロセッサをはじめグラフィックスやメモリーコントローラーなどの各種機能が、一つのチップ上にシステムとして統合されたものです。

過去数年にわたる投資強化の結果、より多くの新製品の市場投入が進み、2021年度、アームの増収幅はさらに拡大しました。

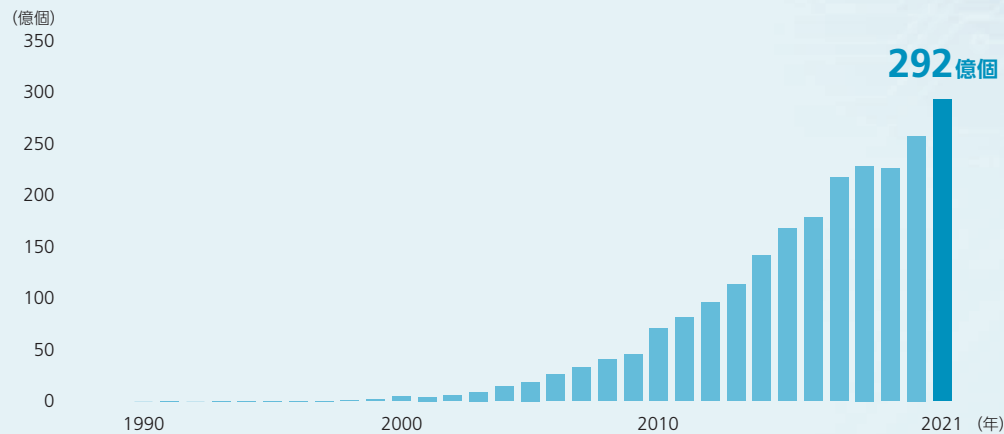
アームの非ロイヤルティ収入（ライセンス収入およびソフトウェア・サービス収入）は2020年度から61.0%増加しました。主な要因は次の通りです。

- 最新の「ArmV9」アーキテクチャーをベースにした「Cortex-X2」、「Cortex-A710」、「Cortex-A510」などの新製品の導入

- 複数の大手グローバル企業との間での、アームのプロセッサおよび関連テクノロジーのポートフォリオを幅広く網羅する長期契約の締結
- 自動運転からデータセンター用サーバー、スマートフォン、スーパーコンピューターまで、幅広い最終市場向けにアームのテクノロジーの採用が拡大したことを受けた、通常以上のライセンス契約数

売上高 (百万米ドル)	2020年度	2021年度	増加	増加率
ロイヤルティ収入	1,278	1,536	258	20.1%
非ロイヤルティ収入	702	1,129	427	61.0%
合計	1,980	2,665	685	34.6%

アームのテクノロジーを搭載したチップの出荷数 (単年)*3



*3 各年におけるライセンサーからの報告に基づきます。当初の報告から件数が更新された場合は修正後の数値です。

アームのロイヤルティ収入は2020年度から20.1%増加しました。主な要因は次の通りです。

- スマートフォン（特に4Gに比べ多くのアームのテクノロジーが搭載されている5Gスマートフォンの販売台数の増加
 - 5Gネットワーク構築の世界規模での進展（より多くの基地局や無線ネットワーク機器のシステムがアームベースチップを搭載）
 - クラウドサービス提供企業のデータセンターにおけるアームベースチップの採用の拡大
- 2021年度のロイヤルティ収入の大半が、2016年以前に開発したテクノロジーが生み出したものである一方、非ロイヤルティ収入は、ソフトバンクグループによる買収後に市場に投入されたテクノロジーやビジネスモデルなどにより増加したものです。

新製品への投資に加えて、業界最大のソフトウェア・デベロッパーのエコシステムへの投資も拡大してきました。アリババ、Ampere Computing、Amazon Web Services、Bosch、デンソー、Mobileye Technologies、Telechipsなどがアームのエコシステムに新たに加わったのも、このような投資の成果といえます。

アームの経営陣には、2018年からCFOを務めるインダー・M・シンもいます。私たちは共に事業をリードし、アームの物語を次の章へと進めていきます。2021年度第4四半期には、アームの株式上場の準備に入る方針がソフトバンクグループから発表されています。

アームの物語は次の章へ

2022年2月に私、レネ・ハースはアームのCEOに任命されました。それまでは、2017年からアームのIPプロダクトグループ (IPG) のプレジデントを務めてきました。在任中、IPGはインフラストラクチャーや自動車などの成長市場向けの



インダー・M・シン Inder M. Singh
CFO, Arm Limited